

E-4：専門業務

開催日時・会場 9月20日（木曜日）13:50-15:20 405(4階)

マスコミから見た大学、そしてURA

イノベーション創出の場としての大学に対する社会的期待は大きく、新聞紙面やネットなどで大学が取り上げられることが多くなってきている。優れた研究成果やそれらに基づく技術開発、大学発ベンチャーの活躍などが話題になる一方で「研究力の低下」、「大学の危機」というようなネガティブなフレーズも目にする事も多い。研究プロジェクトについての厳しい意見について、大学や研究所において研究者とともに働くURAは、そもそも研究という行為が必ずしも予定通り進捗するものではないということを知っているだけに取り上げられている内容について違和感や社会と大学にいる側との認識のズレを感じることも多いであろう。しかし一方で、大学というコミュニティが積極的に社会に向けて十分な情報発信をしてきたといえるであろうか。巨額の公的資金が投入される大学にはその活動について説明責任を負う。URAについても同様である。任期などURAの待遇などが常に問題になっているが、URAを取り巻く諸問題を解決するためには、何より大学や関係省庁関係者だけではなく、広く社会にURAの活動や現状について社会的意義を様々な立場の人たちに認識してもらうことは不可欠である。本セッションは、シニアクラスの科学技術ジャーナリストから見た「大学」、「URA」についての報告とURAとの意見交換で構成される。本セッションが「社会の中の大学、URA」について考えるきっかけになることを望む。

オーガナイザー

原田 隆：東京工業大学・研究・産学連携本部・URA



産業技術総合研究所、筑波大学、福井大学にて産学官連携コーディネーターおよび研究支援活動に従事。平成26年7月より東京工業大学に着任。情報生命博士教育院特任助教としてアントレプレナーシップ教育およびキャリアパス支援を担当した後、研究・産学連携本部URA(情報理工学院担当)としてIT創薬や人工知能などICT分野の研究支援および成果の社会実装に努める。日本知財学会事務局および研究・イノベーション学会理事。

講演者



山本 佳世子:
日刊工業新聞社・編集局科学技術部・論説委員兼編集委員

1964年生まれ。お茶の水女子大学理学部化学科卒、東京工業大学修士修了。日刊工業新聞社で科学技術(バイオ、医学、化学)、ビジネス(化学、食品)担当をし、大学・産学連携担当で15年ほど。文部科学省記者クラブ常駐。URAは文科省の事業開始前から取材している。東京農工大学で社会人で博士(学術)取得、テーマは産学官連携コミュニケーション。東工大などで非常勤講師。



小玉 祥司:
日本経済新聞社・編集局編集委員室・編集委員(科学技術担当)

1985年京都大学理学部卒業、日本経済新聞社入社。青森支局長、産業部次長、つくば支局長、熊本支局長などを経て現職。新聞・雑誌の記者としてエレクトロニクス・ITをはじめ医薬品、建設・不動産などの産業や科学技術分野を長年取材。ウェブの電子版で動画による映像解説も担当している。